



「教会学校の大切さと位置づけ」

松原聖書教会牧師 野口富久

今回は、教会学校の働きの大切さと、教会におけるCSの位置づけについて共に考えてみましょう。

1. 教会学校の大切さ

教会学校のエキスパートとして用いられている方が、いろいろな教会の教師研修会などに招かれて気付いたことがあるといます。

その方が招かれて奉仕したほとんどの教会学校には、子ども伝道に心を注ぎ、教会学校の低迷の壁を打ち破ろうとする教師たちがいました。子どもたちの教会離れ、クリスチャンホームの信仰継承のむずかしさ、そして打っても響かない現代の子どもたちの冷たい心と直面しつつも、子どもたちがいきいきと神様を礼拝し、仕える日を夢見て励んでいました。

教師たちの話を聞くと、彼らの一番の願いは、教材やCSへの経済的援助や活動の許可ではなく、子ども伝道に対する重荷を牧師に持ってもらいたいということでした。

なるほど、ともすれば教会学校はCS教師のやる気や人数に左右され、やりたい人がいなくなればなくなってしまうことにもなりかねません。子どもたちへの教育はともすれば「おまけ」のように捉えられることも稀ではありません。

主イエスは天に帰られる前におっしゃいました。「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい……」（マタイ 28:19,20）ここで言われた「あらゆる国の人々」の中に子どもは入っていないのでしょうか。大人と同様に子どもたちにも福音を宣べ伝え、みことばを守るように教え育てる責任が教会に与えられています。つまり、教会形成の中に子どもも含まれているということです。ですから、この使命と責任を負うべきは、教会のリーダーである牧師なのです。

『今子どもたちが来ていなくても、主のみむねなら従います。』という重荷を牧師が持たない限り、どんなにCS教師たちが奮闘しても、教会学校が教会と結びついて発展することはあり得ない。すべては牧師の確信から始まる」と先のエキスパートは

断言しています。

2. 教会における教会学校の位置づけ

普段私たちは教会に来ている子どもたちの現在の姿しか見ていません。しかし、その子どもたちは将来の大人です。小学校4年生は10年後には成人者であり、中学3年生は25才となり、立派な社会人となっていることでしょう。もし、そのまま教会で育てば、彼らは教会の中核となり、教会を支え、若々しい力で教会にいのちを注いでくれることでしょう。

教会学校を「おまけ」のように捉え、手を抜くということは、教会の柱となれる人材を逃しているということになります。教会全体が教会学校の働きに本気になって取り組むとき、必ずや教会の祝福となって返ってくることでしょう。

うちの教会は子どもがいないというなら、先月号の赤江先生のアドバイスのように、まず親の教会教育から始めるとよいでしょう。

私たちの教会の場合、現在CSのスタッフは22人いますが、そのうち14人は、教会学校出身者です。10数年まえから教会学校は教会形成の重要な一部であるという認識を教会全体で共有し、子どもの伝道と教育に力を入れて来た結果、今の教会があると思っています。

ディスカッションガイド

Q1. 教会学校が教会と結びついて発展する鍵を握っているのはだれでしょう。牧師は、教会学校の働きにどのように関わるべきでしょうか。あなたの教会ではどうでしょうか。改善すべき点は何でしょうか。

Q2. あなたの教会において教会学校はどのように位置づけられていますか。改善すべき点は何でしょうか。